

特集にあたって

南郷栄秀

● 質にこだわった一步上の糖尿病診療をめざして

2014年4月の本誌創刊号で高血圧特集を組み、世に送り出してから早1年、たくさんの嬉しい反響をいただきました。「Gノート」は総合診療のための雑誌として企画してきましたが、病院総合診療医、家庭医のみならず、ほかの専門医、薬剤師や看護師など医師以外の医療職、そのほかの方々、と当初私が考えていたよりも広い読者層に受け入れられているというのを耳にし、ニーズの大きさを実感しています。今後も、皆さんのご期待に応える充実した内容となるよう頑張っていきたいと思っています。

さて、1年ぶりに特集の編集をします。今回も慢性疾患管理のテーマを担当することになり、糖尿病を取り上げることにしました。糖尿病は高血圧とともに大変ありふれた疾患で、平成25年の厚生労働省の国民健康・栄養調査¹⁾によれば、「糖尿病が強く疑われる者」の割合は男性16.2%、女性9.2%であるとされ、平成24年の同調査では「糖尿病が強く疑われる者」は約950万人、「糖尿病の可能性を否定できない者」は約1,100万人と推計されています²⁾。両者を合わせると約2,050万人であり、これほど多くの患者さんがいれば、糖尿病がメインプロブレムとなる患者はもちろんのこと、他疾患で通院している患者さんでも糖尿病を合併しているケースを頻繁に目にするのも当然のことでしょう。

糖尿病は、複数の診療領域におよぶ多彩な合併症を引き起こし、また経過が長いこと、複雑性、包括性、継続性という点で、そのマネジメントにあたっては、病院総合診療医や家庭医がその本領を発揮できる疾患と言えます。また、各臓器別診療科の医師にとっても、自分の専門の疾患のマネジメントのために診ている患者さんが糖尿病を合併していると知ったときに、適切に対処し、スムーズなコンサルテーションができることとスマートです。そして医師以外の医療職の方々には、医師がどのようなことに注意しながら糖尿病患者の診療を行っているかを知っていただくことで、患者さんに合わせた治療をともに提供していければと思います。

今回の糖尿病特集にあたっては、最新の知識をできるだけわかりやすく伝えるよう心がけました。日本糖尿病学会の「科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン2013」³⁾と米国糖尿病

学会（ADA）の診療ガイドライン「Standards of Medical Care in Diabetes 2015」⁴⁾を中心に、総合診療の現場で使いやすいようなシンプルな方法を考えて解説しています。例えば、経口血糖降下薬の第一選択について、ADAの診療ガイドラインではメトホルミンとされているにもかかわらず、本邦の診療ガイドラインでは「薬剤の選択は、個々の薬物の作用の特性や副作用を考慮に入れながら、個々の患者の病態に応じて行う」とあり、国内の実診療ではDPP-4阻害薬がシェアのトップを占め、SGLT2阻害薬も急速に売上げを伸ばしている状況です⁵⁾。エビデンスに基づいて患者さんそれぞれに最も適切な治療方針を決められるようにフローチャートを用いながら具体的に解説しました。

執筆は、新進気鋭の若手や私の信頼するベテランの仲間に依頼しました。いずれも、最新のエビデンスをふまえたうえで、診療現場で実際にどのように行うかに特に重点をおいて書かれています。かゆいところに手が届くような、今日からすぐに役立つノウハウが満載ですので、熟読し、診療に活かしてほしいと思います。

糖尿病診療は伝えたいことがたくさんあり過ぎて、誌面の都合で書ききれなかったところもあります。さらなる情報は、著者が運営するwebサイト「The SPELL」⁶⁾を参照してください。また、本特集でも執筆してくださっている、船橋市立医療センター代謝内科の岩岡秀明先生のご著書「ここが知りたい！糖尿病診療ハンドブック Ver.2」⁷⁾も、かかりつけ医を対象とした大変わかりやすい内容となっていますので、一読をお勧めします。

質の高い日常診療を行う際には、EBM（エビデンスに基づいた医療）を実践することが大切なポイントです。質にこだわった一歩上の糖尿病診療を、ぜひ実践してください。

文 献

- 1) 厚生労働省：平成25年国民健康・栄養調査結果の概要
<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10904750-Kenkoukyoku-Gantaisakukenkouzoushinka/0000068070.pdf>
- 2) 厚生労働省：平成24年国民健康・栄養調査結果の概要
<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10904750-Kenkoukyoku-Gantaisakukenkouzoushinka/0000032813.pdf>
- 3) 「科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン2013」（日本糖尿病学会/編），南江堂，2013
- 4) American Diabetes Association：Standards of Medical Care in Diabetes 2015. Diabetes Care, 38：S1-89, 2015
- 5) シード・プランニング：市場調査レポート2014年度版2型糖尿病治療の現状と将来展望，2014
<http://www.seedplanning.co.jp/press/2012/2012041701.html>
- 6) 南郷栄秀：The SPELL なんごろく－糖尿病
http://spell.umin.jp/nangoroku/nangoroku_diabetes.html
- 7) 「ここが知りたい！糖尿病診療ハンドブック Ver.2」（岩岡秀明，栗林伸一/編著），中外医学社，2015

プロフィール

南郷栄秀 Eishu Nango

東京北医療センター 総合診療科

今、国の政策として、まるごと診ることができる総合診療医を増産しています。数が多いだけで質が悪いと言われることがないように、専門家から一目おかれるような質の高い診療を提供したいと思います。私の運営するThe SPELL (<http://spell.umin.jp>)には、EBMに関する情報とともに、各地での講演会やワークショップの情報も掲載していますので、ぜひご覧ください。呼んでくださればどこへでも行ってお話しますので、気軽にご依頼ください！